



大宰府と西海道

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 律令国家による地方支配

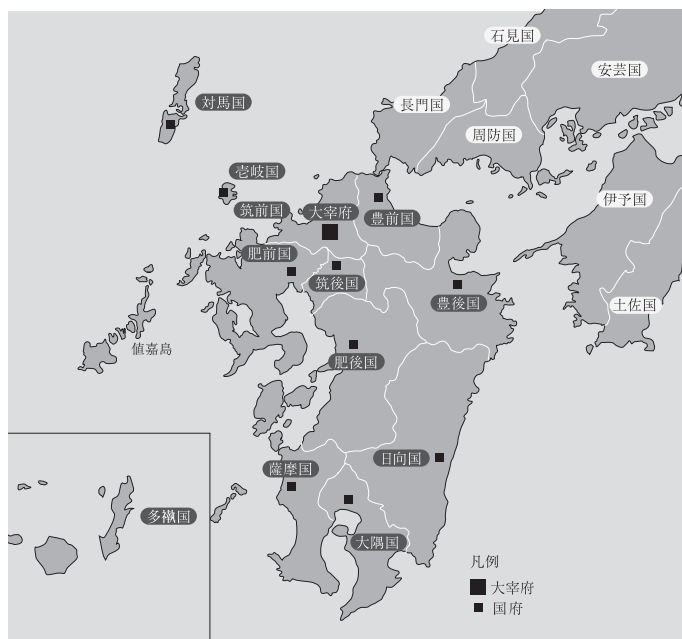
古代の日本は、中国を見習い律令法に基づく中央集権的な国家体制を構築しようとしていました。その地方支配は、国郡制を基本として、各国に国府が置かれ、中央から派遣された国司が国内支配を行っていました。国司は、政治・経済・司法・軍事・宗教全般にわたる権限を委ねられ、律令に基づく中央集権的な支配の実現に努めました。国には複数の郡が設定され、地方豪族出身の郡司が郡衙(郡家)を拠点として租税の徴収や農業の奨励などの実務を担いました。さらにその下には、五十戸からなる里が編成され、里長が末端の雑務に当たっていました。

律令国家は、国・郡・里の行政機構の上に、五畿七道という広域の行政区画を設けていました。五畿とは、平城京や平安京などの都周辺の国々をいい、山城・大和・河内・和泉・摂津の5カ国を指します。その他の地域は、東海・東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海の七道に区分されていました。西海道以外の六道には、基本的に広域な行政組織は置かれず、中央政府と諸国は直結していました。

2 西海道の地域性

西海道は、筑前・筑後・肥前・肥後・豊前・豊後・薩摩・大隅・日向・杵岐・対馬・多瀬の九国三島をいい、現在の九州地域にあたります。なお、多瀬国については、のちに大隅国と統合され、西海道は九国二島となります。

西海道は、都から遠く離れた律令国家の西辺に位置し、中国大陸や朝鮮半島に近いことから、他の地域にみられない特殊な事情を抱えていました。九州北部は、古来より外交の窓口や対外防衛の拠点として、歴史的にも重要な役割を担ってきました。また、九州南部や離島である薩摩・大隅・日向・杵岐・対馬の国司の職掌には、一般国司にみられない「鎮捍・防守・蕃客・帰化」といった西边防備や国境管理などの職務が加えられています。あわせて薩摩・大隅・日向の三国は、「隼人」と呼ばれた人々が暮らしていた地域であり、律令支配への抵抗からその浸透には長い時間を必要としました。そのような事情もあり、西海道のみは、大宝令施行以前の筑紫大宰・筑紫総領を継承する形で、九国二島を総監する大宰府が常置されました。



古代の九州地図

No.	職掌	内容	一般諸国	三国二島	大宰府
1	祀社	神社の管理・監督			
2	戸口簿帳	人民の把握			
3	字養百姓	人民の救済			
4	勸農課桑	農業の奨励			
5	糺察所部	治安の維持			
6	貢奉	人材の登用			
7	孝義	家族秩序の維持			
8	田宅	田地・宅地の把握			
9	良賤	身分秩序の維持			
10	訴訟	訴訟の受理と裁判			
11	租調	租調の徴収と運京			
12	倉廩	倉庫の管理			
13	徭役	力役の徴発			
14	兵士・器仗・鼓吹	兵士・武器等の管理			
15	郵駅・伝馬	駅家・駅・伝馬管理			
16	烽候・城牧	のろし・城・牧の管理			
17	過所	通行手形の発行			
18	公私馬牛	牛馬の把握・管理			
19	闕遺雜物	遺失物の管理			
20	寺・僧尼名籍	寺院・僧尼の統制			
21	鎮捍・防守	辺境の防備			
22	蕃客	外国人の入国手続き			
23	帰化	外国人の定住手続き			
24	饗燕	外国使節の応接			

国司と大宰府の職掌

3 大宰府と西海道

大宰府は、中央政府と国府、あるいは「京」と「国」との中間的な存在でした。大宰府には地方の役所でありながら中央官司の八省とならぶ定員の役人が配置され、その長官である大宰帥には中央政界の首班である左右大臣・大納言に次いで高い位が与えられました。大宰府は、その役割の重要性から、律令国家の地方官司の中にあって破格の規模と位置づけを誇っていました。

大宰府と西海道の関係は、他の諸道における中央政府と諸国との関係に引き合わせて考えることができます。それは財政的な面によく表れています。諸国の税物は直接中央へ納められましたが、西海道諸国の租の一部と調庸物だけは大宰府に納められ、基本的にその運営費に充てられました。また、諸国の収支をはじめとした帳簿や行政報告も諸国からまず大宰府に届けられ、その監査を受けた上で、中央政府に提出されました。大宰府は、西海道における中央政府ともいえる機能を果たしていたといえます。

ただし、大宰府による西海道支配は一様ではなく、薩摩・大隅・日向・壱岐・対馬の三国二島と他の六国とは大きな違いがありました。大宰府は、日向を除く二国二島に対して、六国からの財源を再分配す

る役割を担うとともに、国司の欠員が生じた場合、大宰府の役人をもって兼務させることが認められていました。一方、六国の郡司子弟は、大宰府の府学校において役人に必要な学識と技能を身につけ、軍団兵士は、都を警護するために上京した衛士のように、大宰府へ上番し政庁や兵庫などの守衛に当たりました。大宰府には、西海道諸国はもとより国内外から多くの人や物が集まり、「天下の一都会」と呼ばれるほどの賑わいだったといわれています。

大宰府の役所跡からは、西海道諸国から貢納された税物に付けられた付札木簡（荷札）が多く出土しており、その記述により九州の特産物である紫草や真綿など、管内諸国から運ばれてきた調庸物を具体的に知ることができます。木簡の中には「奄美嶋」（奄美大島）や「伊藍嶋」（沖永良部島）などの南島の名を記したものもあり、大宰府が南島との交流や支配に関与していたことが窺えます。一方で大宰府管内の国府や国分寺などの役所・寺院跡から出土する鬼瓦や軒瓦には、大宰府で使用された大宰府式鬼瓦や老司式もしくは鴻臚館式軒瓦の影響を受けたデザインのものが多く、大宰府と西海道諸国との深い関わりを示しています。

（学芸調査室 松川博一）



大宰府史跡出土の付札木簡 九州歴史資料館所蔵



大宰府政庁跡出土の鬼瓦
九州歴史資料館所蔵



墓ノ尾遺跡出土の鬼瓦
岡垣町教育委員会所蔵



長安寺廃寺出土の鬼瓦
朝倉市教育委員会所蔵



薩摩国分寺跡出土の鬼瓦
新田神社所蔵



編集 発行：平成23年2月1日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>